

Cocc. 古典的ケース 2

M. N. 11歳の少女はしっかり症状が現れた舞蹈病で私の治療を受けに来た。
それは数週間起こっていた。

母親と友人は、彼女の手と足が少し落ち着きなく動いてじっとしてられないことに気づいたが、彼女が学業を頑張っているのをわかっていただけでも軽視していた。彼女はクラスの中で一番になろうと熱望した。そして両親は彼女の熱心を抑えつけるよりむしろ激励した。

私は舞蹈病の動きはもっぱら右側に限られていることがわかった。
右手と右足の筋肉は、不随意運動に襲われた。

彼女の話し方は不明瞭でどもりがちであった。
彼女は右手を使って服を着ることも食べることもできなかった。
不随意な動きによって部屋の物に足をぶつける以外に痛みがなかった。

このケースにおいてリウマチの病歴はみられなかった。

私はすぐに学校とすべての精神労働を止めさせ、彼女の睡眠、食事、運動や娯楽に関して指示を与えた。

彼女には、次のようなキーノートの症状があった。
右腕と右脚が主に罹患していて、目蓋はピクッと動き、目の痙攣性の動きがあった。
睡眠後や話した後に悪化していた。

Cocculus が与えられ、4週間でケースをほとんど治癒した。

その後、彼女は右手を使って服を着ることも食べることもできるようになった。

検査している間、舞蹈病の動きはほとんど見られなかった。
彼女は完全な回復へ向かっていった。